

緑の相談所だより

{ 2. 3月号 ~1991. 1.31~ 発行・編集 旭川市緑の相談所 }

行事案内

《講習会》

■ ぶく、モモの管理

開催：2月 3日(日) 午後1~3時

定員：60名 / 費用：無料

講師：小島博昭相談員

(旭川市緑の相談所)

《実技講習会》

■ アザレアの植え替えとサギソウ植え

○アザレアを来年も咲かせるための植え替えの実技指導をします。花の終わった鉢をお持ち下さい。

・植え替え用材料⇒鹿沼土・ピートモス・鉢をお持ち下さい。

当売店にも用意してあります。

○日本が誇る野生ラン「サギ草」を植えます。

・サギ草球根5個、鉢、ミスゴケ等セットで用意しておきます。教材費として600円前後予定しております。

開催：3月24日 午後1~3時

定員：50名

講師：村田正一相談員 (旭川市緑の相談所)



《サギ草》



バ = ティ = ー = 飾
飾 ろ う !!

【鉢カバー】

季節によって、パーティーの色をきめ、鉢植えに少し“おめかし”をさせ鉢にリボンをつけたり、レースや色紙をまきつけたり、籠やカゴ、和紙などのラッピングでドレスアップし玄関や

廊下、部屋のコーナーに鉢を、置くだけで気持ちはもうパーティー気分・・・。



※ お問い合わせ／お申し込みは・・・

旭川市緑の相談所 神楽岡公園内 ☎ 65-5553



▲植物界の成長スピードNo1 は、タケ、ベトナムには一昼夜で、約2倍も伸びる種類があります。

▲ゾウの綿帽子は、突風で飛ばされるわけではありません。上昇気流が予想される風を読みそれを狙ってとぶのです!!

▲昆虫植物の消化力は、動物の胃袋も顔負け。牛の生肉やチーズはおろか、骨片や歯のエナメル質まで溶かしてしまいます。

▲植物長生きNo1 は、1816年暴風雨で倒れたカナリア諸島のリュウケツジュ。樹齢は、6000年~8000年だったとか。

▲ギリシャ神話によるとバラはヴィーナスとともに海の波から誕生したそうです。ヴィーナス誕生の名画にも描かれています。



食 事 題



☆鳥はどうやって水を飲むの

▶普通はクチバシで水をすくって顔を上げ、口の中に流し込む

☆海に住む鳥は海水を飲んでいますが大丈夫なのですか。

▶クチバシの上に塩腺というものがあって、塩分をろ過して鼻の穴からだしてしまうので平気なのです。

☆魚や動物を丸飲みする鳥は、骨や毛をどうするの。

▶消化できないものは、まとめてはき出します。フクロウ類やカワセミなどでみられます。



大樹かな

こぼさじと抱く

囀る

星野立子

四季俳句



水原秋桜子

冬菊の
まどふはおのが
ひかりのみ

ウメの花後の管理

小島相談員

花が終わったら来年もまた花を咲かせるために十分な管理をすることがたいせつです。季節ごとの作業ポイントをあげると次の通りです。

🌸 開花～3月

花の終わったものを温度の高い部屋で管理すると伸びすぎます。逆に -5°C ぐらいの部屋で管理すると枯れることがあるので春までは $5^{\circ}\sim 15^{\circ}$ ぐらいの部屋で管理します。水は土が乾いたら与える程度にし“肥料”は与えません。

✂️ 4～6月

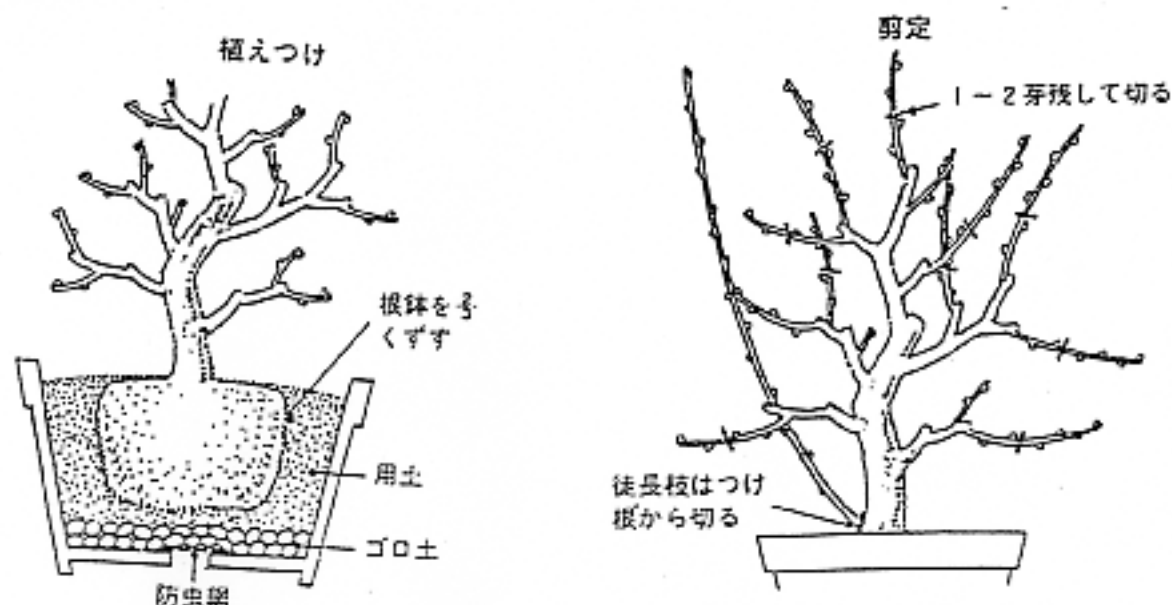
剪定、植え替えは4下～5上ぐらいに同時に行うとよい。下図の通り。植え替えは、長く伸びた根を切りつめ、根土も3分の2くらい取り、新しい土で植えこむ。用土は水持ちがよくて水はけのよいものを使うと良い。例えば・赤玉土=7・腐葉土=3に・火山れき=少量など。水やりは新芽が伸び始めると要求する量も多くなるので用土の表面が乾いてきたら午前中にタップリと与えるようにします。

☀️ 7～8月

夏は水やりの回数が多くなります。乾いたら朝夕2回ぐらい与えますが、花芽の分化期（7中～8中）頃は夕方の水やりは避け乾き気味で管理するのが良い様です。肥料は骨粉を少量与えます。芽つみはウメの場合花芽の分化期までに伸びの止まった枝に花芽をつけるので、まだ伸び続けている枝は葉を10～15枚残して先を切りとります。

🍂 9月～開花促成を始めるまで

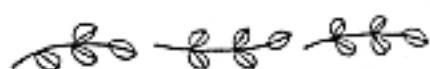
秋～初冬にかけて日光に充分あてながら寒さにあわせることが（40日くらい）開花のために大切な事です。寒くなったからといって室内に入れずに弱い霜にあてる事です。水やりは、用土の表面が乾いたら与えるようにします。肥料は9月上旬に骨粉を与えます。病虫害の防除は春からの的確な判断のもとに防除態勢をとっておく事が大切です。アブラムシ・カイガラムシ・ケムシ類・ハダニ・ウドンコ病など。



2月3月の園芸

村田相談員

2月になると、寒さはまだ厳しいけれど日差しの明るさと日照時間が増えてくるので室内の植物たちも少しずつ回復のきざしがみえてきます。



日当たり

・日差しが強くなってきますから窓辺の鉢は葉が日焼けすることがあるので気をつけましょう。**カンツラン**・**ユキゴケ**など日焼けしやすいものはレースのカーテン越しくらいの日光がよいでしょう。**ゴムキ**・**ガクハマル**・**ユキゴケ**などの観葉植物はできるだけガラス越しの日光を浴びさせて元気を回復させましょう。

水やり、肥料

・**シガラキ**・**イリムラ**・**ハゴイタ**などのようにつぎつぎと花を咲かせるものは体力を消耗しますから、水に溶かした肥料を週に1回与えましょう。**観葉植物**など新芽を出しているものは、水もたっぷり与え、うすめの水肥も与えて力をつけてやります。ただし朝方の最低温度が十分とれない場合は、鉢は乾き気味で肥料も与えません。

カンツランの花茎を伸ばすために

・**カンツラン**の花が咲く季節です。ときには花茎が伸びていないので葉の間にはさまったまま咲いてしまうことがあります。花茎を伸ばすためには前もって10度前後の低温に1か月半くらい合わせておくことが必要です。

▶葉の間をかき分けてみて花芽がわずかでも見えたらつぎのようにします。

- ①水やりは鉢の土が乾き始めたらたっぷり与え、花茎の伸びを助けます。
- ②居間のような暖いところでは花茎が伸びないうちに無理に咲かされてしまいます12～3度前後で昼夜の温度差の少ない所に置き、夜間は電灯の明かりに当てないようにして花茎をゆっくり伸ばします。
- ③花茎が伸び始めたら水に溶かした肥料（1000倍液）を3～4日間隔で2～3回与えると効果があります。

シンビジウム

・咲いた花をいつまでも付けておくと株が弱ります。来年も咲かせたいときは、てっぺんの花が咲いたらなるべく早く花茎の元から切って、花瓶にさして眺めましょう。下から新芽が伸び始めたら水肥を与えて育てます。新芽を秋までしっかり育てないと花芽が出ません新芽がたくさん出たら3本だけ残してあとは欠き取ります。

果樹類の剪定

・2月は果樹類の剪定にいい時期です。まず、徒長枝（垂直にずっと伸びている枝）ふところ枝（内側に向いている枝）、枯れ枝などを切り取り、その後樹全体の姿を観察しながら、どの枝にも日光が平均に当たるようにじゃまをする枝を切ります。**アザミ**・**カキ**・**モミジ**類は雪解け近くなりますと、切り口から樹液を吹き出して止まらなくなりますが剪定時期が遅れないよう気をつけましょう。